

# 平成 30 年度第 1 回 川崎市多摩川プラン推進会議

## 議事録

1 開催日時：平成 30 年 8 月 8 日（水）午後 3 時 30 分～5 時 15 分

2 開催場所：川崎市役所第 3 庁舎 15 階 第 1 会議室

3 出席者（敬称略）

会長	鈴木 誠	東京農業大学教授
副会長	吉富 友恭	東京学芸大学教授
委員	松井 隆一	NPO 法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	寺尾 祐一	NPO 法人多摩川干潟ネットワーク副代表
委員	目黒 孝哉	味の素株式会社
委員	小野 貴之	富士通株式会社
委員	梅原 七重	市民公募
委員	江原 和人	市民公募
委員	堀 良通	市民公募

4 議事

(1) 今年度の実施事業等について（公開）

(2) 意見交換（公開）

5 傍聴者：なし

## 6 会議内容

### ○開会、委嘱状授与、各委員紹介

【事務局】 定刻となりましたので、平成 30 年度第 1 回川崎市多摩川プラン推進会議を始めます。私は司会進行を担当します、多摩川施策推進課の山口です。よろしくお願いいたします。

はじめに、昨年度で任期満了を迎えた委員の改選後、初めての会議ですので、新任の方および再任の委員の皆さまに委嘱状の授与を行います。

《以下、各委員へ委嘱状授与及び各委員紹介》

【事務局】 続きまして、本日の委員の出席状況ですが、10 名中 9 名の委員に出席をいただいています。したがって、川崎市付属機関設置条例第 7 条第 2 項に基づき、半数以上の委員の出席により本会議が成立していることを報告いたします。また、本会議は川崎市市民議会等の議会の公開に関する条例に基づき、公開とさせていただきますとともに、会議録におきましては個々の発言者の氏名を記載させていただきますので、あらかじめご了承願います。なお、傍聴に関して本日はいません。

では、開会にあたり、緑政部長の磯田より、あいさつを申し上げます。

### ○緑政部長挨拶

【緑政部長】 本日はお忙しい中、また台風が接近する中、集まっていただきまして誠にありがとうございます。

本日は第 1 回ですので、今年度の主な取り組みについて説明します。詳しくはのちほど事務局から説明しますが、引き続き、市民の皆さまと協働事業を進めたり、にぎわい創生に努めたりというソフト面と、今年は上平間・古市場地区の再整備と、サイクリングロード延伸などのハード整備も含めて説明させていただきます。委員の皆さまから意見を頂き、多摩川の魅力向上、市民サービスの向上に努めていきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### ○議事

【事務局】 それでは、これよりの進行については会長にお願いします。

【鈴木会長】 それでは、新多摩川プランの今年度実施事業のご報告を受けた後に皆さんから意見を頂こうという会議なので、よろしくお願いいたします。台風のこともあり、早めに終わりたいと思います。どんだんご意見を言っていただくという形で進めたいと思います。《以下、事務局による資料確認、説明》

【鈴木会長】 推進施策だけでも 1 から 30 まであるため、今年度重点的にやっているものを紹介されましたので、それに基づいて意見や質問を頂きたいということです。どなたからでも結構ですので、いかがでしょうか。

【松井委員】 よくやっているなと思えるんですが、実際、市民の立場として中に入って

みると、たくさん問題があると思います。そういうことを掘り下げることはどこかでするのですか。

【事務局】 一つ一つですか。

【松井委員】 一つ一つ、時間をかけてやらないと、こういう所で。年にこれは何回ありますか。

【緑政部長】 2回です。

【松井委員】 2回ではあまり議論ができないと思います。こういうプランがあって、施策があるのはいいことですが、市民協働と言いながら、実際はどうなのかというのがあります。今まで行政主導型できていたが、予算が少ないから今度は市民が頑張ると言うのです。そう言うわりには、行政と市民との一体感がまだまだ少ない。市民の力を十分活用できていないと思うし、活用するのが行政は下手だと思います。一つ一つやっていることについて、もう少し、地域のグループとかいろいろな人ともう少し上手に話をしないと、本当の力を発揮できてやれないのではないかと。行政の場合は縦割りだから、多摩川施策が窓口になったり、水辺の新しい課ができたり、子どもたちということだから教育委員会が関係あるし、各区も関係があるのです。我々、二ヶ領せせらぎ館は多摩区と関係があるので多摩区に推しても、まだそんなに乗ってこないなど、いろいろあります。行政全体として力を発揮できるような仕組みがまだできていないと思います。ここで議論をしてもし尽くせないし、個々にいろいろなものをどうしていくのか、やらなければいけないと思います。もっと良くできると思うし、時間をとって市民とよく話し合う場を持って協議していかないと良くならないのではないかと思います。

【鈴木会長】 大事な話です。今の発言に市から。

【緑政部長】 おっしゃるとおりで、多摩川施策推進課と企画課で、2つでやっているような状態です。役所内部の話で、取りあえずうまく進むだろうということで始めた一環です。縦割りの話は、まさしく本庁でも2つに分かれているし、区の中も道路公園センターと区役所の中とはなかなか話をする機会がなかったりと、かなり温度差があるのです。最終的には主催がきちんと取りまとめるしかないのですが、取りまとめきらなかった部分も確かにあると思います。

今回の多摩川プランに関しては、予算を取ってやっている以上、進捗管理が求められます。役所内部もそうですし、市民の方にもこういうプランを作りました、こういう形で年々進めていますという報告をするために、皆さまに集まっていただいてやっています。最初に松井さんから頂いたお話は確かにこういう場にはなじまないと思っていますので、そういう場を設けて、我々がやっているソフトなり、ハードなり、イベントなり、バーベキューの対策会議なり、いろいろなことをあちらこちらで抱えていますので、そういう所で吸い上げて意見を頂いてやっていきたいと思っています。

【松井委員】 もう一つ、費用の問題で、どのくらいの費用を使ってこういうことができ

ているのかということも、我々は全く分かりません。各グループいろいろ聞くと、お金集めが大変だったから交通費ももらわないで頑張っているなど、いろいろあるようです。仕事でやっている所もあるし、そうでない所もあります。それを一括してやっていますよと言っても、実際、そういうものが分からないと評価や反省がきちんとできないのです。

【鈴木会長】 今の話は大変いい話です。ハードもそうですが、イベント系は「やった」ばかりではなく、やったことに対してどれだけ有効だったかということと、次により良くしていくために、どうしたらいいかというのを、みんなで反省会をしないといけない。

今回の「水辺で乾杯」というものは特にそうで、始まったばかりだから、今のうちに、多摩川が良くなる方向でこのイベントをリードしていかないと。ただそこへ行って乾杯しただけではなく、何をしたかというのがないと。ごみ拾いをしたとか、多摩川の自然や防災について勉強会をしたとか、そういうことがあるようです。これだけたくさん機会があったのに、それぞれどういうやり方をしていたかという情報がまず共有されていない。よりいい所できちんと集めて次の時にフィードバックするように考えていかないと。これは国で音頭を取って、新しいセクターの人たちが参加しているから、こういう時こそ、次につなげることをやったほうがいいと思います。

【松井委員】 行政側とか我々の問題などいろいろありますが、それをもう少し詰める場所が欲しいのです。

【堀委員】 推進施策の土木関係等は、これは淡々と進めてもらうことです。それ以外の、先ほど松井さんから指摘があった、地域住民との交流イベント、あるいは交流イベントを通して環境学習も含めてやっていきます。そのやり方について、私は初めてだが、この委員会でいろいろ意見を言ってもらおうということが趣旨なのですか。

【鈴木会長】 この会はおおもとの新多摩川プランという全体像があり、この全体像にふさわしい推進施策が 30 あります。この 30 がきちんと実施されて、「自然と調和した美しい多摩川へ」など 5 つの基本目標が実現されるように、きちんとこの計画が実施されているか、あるいは実施するために、より良くするためにはどんなことをすべきかという意見を頂く会議です。ハード面でも、これはおかしい、こういうことをもっとすべきだという意見を頂くようなこともぜひお願いしたいのです。全体像を見回していただきたいのです。どういう形でも意見を出していただければ、こちらで、あるいは事務局のほうで解釈しながら、このプランに結び付けます。ぜひ、いろいろ発言していただきたい。

【堀委員】 僕は基本的に、あまり行政に頼ることは好きではないのです。行政は起爆剤的なチャンスを与えるような仕組みを地域住民あるいは地域団体、いろいろな NPO 等にうまく波及させていくところに重点を置いたほうがいいと思います。ところがこれを見ると、「水辺で乾杯」などはくだらない企画だと思います。多摩川に対して、どのような意義を持つのかというのは全く分かりません。これはやめたほうがいいのではないかと考えています。なぜ、こんな企画が出てきたのか、よく分かりません。行って、集まって、幸区

だと遊具にタコがありますけれども、それをモチーフにした、たこ焼きだとか、多摩川とどういう関係があるのか、僕はよく理解できません。そういうのを基にして、上流の多摩区から下の川崎区までいろいろやるわけですが、そんなことをやらなくても、うまく多摩川と親しむとか、環境学習、一番重要となっている防災等の学習のやり方はいろいろあると思います。乾杯して終わりでは、そんなことで時間やお金を使うのはもったいないという感じがします。

【吉富副会長】 今の意見に関して、よろしいですか。「水辺で乾杯」には、私も少し参加したことがあります。今、大学生に意識調査をすると、川に行く機会があまりなくて、まず、水辺に足を運んでもらうことがとても重要だと思います。こういう機会でもない、「どうして川に行く必要があるの？」と言う子がいるくらい、そういう場所に行かないのです。そこに行くことで水辺の魅力に気付いたり、仲間と会ったり、うちの学生の場合はそういうところから発展していくようなこともあります。若い世代に対してはこういう活動も最初のステップとして重要なかと私は感じています。

【松井委員】 僕も同じことです。

【江原委員】 僕は世田谷で生まれ育って、多摩川流域、そのあとは溝の口周辺でずっと住んでいます。そういう中でいろいろ感じています。台風 20 号のあと、その復旧が全く遅かったです。テニスコートや野球のポールやネットが曲がったり、土台がひっくり返ったりと非常に危険な状態でした。堤防の低い所もありますので、警報について、監視カメラ等で逐一どういう状況なのか、どのように復旧していくのか、それは国交省で決まっているのもあるでしょうけれども、それが一番大事なことではないかと。それがきちんとできなければ、いくら環境整備で水辺を整備しても、みんな水の泡です。そういう所が第一に、全部把握できるような監視体制を。世田谷も含めて東京都と国交省と協力体制を取り、それがきちんとしていなければ、環境、イベントだといろいろ言っても始まらないのです。多摩川を管理事務所が毎日 1 回、国交省と相互してバイクを走らせていますが、あれは何か、何の役目だと感じる。いくらプランを実行しても、松井さんが言ったように、参加をしても市民のためになっていないのであれば、金をつぎ込んでも意味がないのではないかと思います。二ヶ領せせらぎ館についても、あそこへ行くだけでも汗びっしょりで、あそこでイベントをやりなさいと言っても、夏には行けません。世田谷のようにレストランや休憩場所があれば、まだいいのです。その辺も含めて、形だけのこういうものをつくっても、実際に市民が参加するような機会、花火大会でたくさん集まるだけではどうしようもないです。

バーベキューも、二子や丸子は毎週土日はすごい人です。たぶん、都心などの人が来て、若者の中で憩いを感じるような形だと思いますが、ごみ問題がある。丸子橋の河川敷に国土交通省の管理エリアがあることを初めて知りましたが、その国土交通省管理エリアで自由にバーベキューをやっていますが、ごみも置きっぱなし。注意看板にしても落書きで見

えない所もあります。いくらプランをやっても、そういう所がきちんとチェックされていないのです。問題点は何があるのか、これをフィードバックして改善していったのではないかと。行政の方も何年かで、どんどん代わってしまうという中で、幾つかの部署で縦割りの事業の中での難しさがあると思います。サイクリングのことについても、事故が多発して救急車も来ています。多摩川のサイクリングコースや河川敷で、何件くらい昨年がありましたか。

【事務局】 こちらは来ていません。一応はないということでした。

【江原委員】 ジョギングをやっていると、救急車が来ています。ヘルメットをかぶってスピードを出すので、これは拡張工事を2メートルから3メートルにしたら、もっとスピードを出すのではないかと思います。府中のように段差を付けて、あるいは標識で最大、車と同じように30キロとか40キロという細かい所を。安全管理が第一で、それがなければ、歩行者も楽しめないのです。その辺が行政は抜けているかなと思います。

【松井委員】 非常にいい話をしていると思いますが、今日は2時間でやらなければいけないのに、個別の苦情のような話をこんなにたくさんいろいろあって。だから、一つ一つの課題はもっと回数を増やして詰めないと。時間がないのではないかと思います。それはそれでやってもらいたい。

【鈴木会長】 会長としては時間が限られているので、ただ、今回は、江原さん、堀さん、松井さんは初めてなので、普段の思いを含めて発言していただいていると思います。先ほど行政が代わるという話があるけれども、この会議があることによって、プランや精神は不変のもので、これを実現することによって行政の方たちがきちんとそれをやっていくように、この会はやるのです。実は多摩川に関係されている方たちは、もっとたくさんいて、もっとたくさん意見があるはずで。それを全部聞けるかといったら、それは大変です。ただし、それを集約した形でプランを、理念を作っているのです。これについて実行することに対して、ここにいる方は代表として、有効な、実効性のあるプランに基づく行政の施策になるようにということをぜひともきちんとやってほしいのです。

個別の課題については、先ほど行政がきちんとやれば、それはそれでいいだろうという話でしたが、そこはある意味でこちらが指摘して、ある時は応援する。例えば「水辺で乾杯」の話は早めに次のことを考えていかないと、後々、たくさんの方が関係するようになった時に、行政にいろいろなことを言い始めたり、やり始めたら大変になります。だから、早くやっておいたほうがいいと。その時に交通整理をしたら、そういう時にはこの会が支えることができるのです。そういう役割がこの会にはあると認識しています。

なおかつ、皆さん、ここでは多摩川ラブですから、それがあることと、もう一つ、基本目標ⅠとⅡの話がほとんどないのです。実際にはやっているけれども、ここには載っていない。大事なものは、ここでは基本目標Ⅰ「自然と調和した美しい多摩川へ」、Ⅱは治水の強化、緊急河川敷道路の整備、これは今、江原さんが指摘した「治水と安全性がなかったら、

何もないでしょう」という話なのです。やっているはずですが、日常的にやっている話なのであまりここに話題として出てきません。これは基盤としてやっているからです。河川管理者側としては、羽澤さんが京浜河川事務所からみえているので、基本的な水防に関すること、治水に関することを、今日ここにいないこと自体が、きちんとやっているということです。なおかつ、ここで出た話は京浜河川事務所に持って帰って相談しますという話もあります。年に2回が妥当かどうかはありますが、きちんとした議題の整理をしていただければ、意見を反映していただけます。

ここにいる方たちは多摩川プランについては十分理解していただいて、これに関わるようなこと、あるいは今年度の実施事業に関係して、毎週ジョギングをやっている、この辺がこうなっていると、これは委員として現場を見ていての意見ですと直接言っていただいても、それは事務局も大歓迎のはずですから、それもしていくという。ただし、一市民としての意見だけではなく、推進会議の委員として、ここは考えていただきたいのです。最初なので、こういった理解は、行政の人も含めて、より良くしていこうということが大事で、そこは守っていきたいと思います。

**【梅原委員】** いよいよ、施設の再整備が古市場地区に来たなと思ってすごくうれしいのですが、実はこれが全部整備されても、私の年代にはあまり関係がない、若い人向きの整備なので。これはこれで素晴らしいことだと思いますが、私が一市民として、私の年代で現在の状況を考えて一番興味があるのは、基本目標Ⅱ「多摩川を知り災害から市民を守る」ということです。この多摩川の整備が災害から逃れるためにどうあるべきかということに私はとても関心があります。一市民としてももう少し身近なことに力を注いでいただけたらうれしいなと思います。

**【松井委員】** すごく大事な意見だと思うけれども、一市民の意見というのは、川崎市民150万人、みんな、いろいろなことを言います。梅原さんはこう言ったけれども、違う人もいるわけで、いろいろなのです。それを全部取り上げるのはなかなかできないし、推進施策があつて、これについてどうかということを知りたいのではないかと思うので、そういうことについて、もう少し詰めてもらいたいなと思います。

**【鈴木会長】** 事務局から、何かありますか。基本目標Ⅱがあまり多くないのはそれが大前提なので、今回は出てきていないと言いました。治水のことなどが続いたので。

**【緑政部長】** これに関しては、今日、羽澤副所長がいれば一番よかったのですが、もともと、鬼怒川を経緯として、大騒ぎを始めていて、カメラをどこに付けようかという話は昨年度の段階からやっています。どこに幾つ付けて、どのように監視体制をして、どのように情報を流そうかとやっています。そのペーパーがないのはおっしゃるとおりです。京浜河川事務所と話をし、きちんとお伝えしたほうがいいという話をさせていただきます。

**【松井委員】** どこの部署かは知らないけれども、ハザードマップも新しくやっています。

市民が防災について、かなりあちらこちらで災害が多いから、すごく関心を持ち始めたのです。多摩川もいつかくるのではないかと、みんな思っています。

【梅原委員】 心配ですよ。

【松井委員】 今度は多摩川ではないかと。

【目黒委員】 味の素は多摩川沿いにありますので、皆さんの心配というか、私も今日、本当は防災をやっているの由来でいいかどうかというのがありました。基本的に私もずっとやっている中でいうと、国交省さんの対応ではスーパー堤防もありますし、高潮堤防をやられたり、いろいろ苦勞をされているのは、私がやりとりをしていて分かっています。先ほど言ったカメラも、前から見ると相当増えています。昔ですと、河口など、多摩川でいくと5~6カ所くらいだったのが、支流も出てきています。ただ、国交省のアピールだと思います。京浜河川事務所のホームページに入るとたくさん映っています。我々はその情報をもとに、いろいろ見た中でやっています。ただ、たくさんやっているのを、このプランでどんな所を見ればいかと伝えると、皆さんの不安が減ると思います。皆さんが不安な所はやられている側の行政からも、アピールを。JR川崎駅の中央通路へ行くと河川情報表示版があつて、京浜河川事務所の情報が出ているので、今日行くといろいろ出ていると思います。そういうところをもっとアピールされるといいのかなと、きちんとやっているのと、やっている部分の出し方で基本目標Ⅱなどは出てくると思います。

基本目標Ⅰなどは寺尾さんの所に、我々企業として年1回、水辺の活動をしているので、逆にこちらから情報で、出張してやっていると、いろいろなことをやっていると出てくると、そういう工夫をされるといいのです。ぜひとも、皆さんがやっていることをきちんと伝えていただいてもいいと思います。

【寺尾委員】 この資料を拝見しますと、干潟館とせせらぎ館だけ見ると、環境学習だけしかやっていないわけではないのです。実は干潟館に関しては、倉庫に災害対策車が2~3台入っています。鬼怒川の決壊があつた時にも、水防センター（干潟館）から救助に行きました。干潟館の周りに築山が3つあり、土のうを作るための築山になっています。そういう役割をしていることも記入しておいていただければ、これを見た時にはっきりするのではないかと思います。その辺の理解もよろしくお願いします。

あと、先ほどミズベリングの話がありました。残念ながら川崎区は中止になってしまいました。ここで苦言を言わせていただきますと、中止になったという連絡が関係者には来ましたが、立て看板1つあつたらうれしかったと思います。私は川崎市の人と2名で「すいません、中止になりました」と目の前で待っていた関係がありましたので、その辺だけよろしくお願いします。

【事務局】 自分たちがやる仕事というか、そういうのに重点を置いてという部分があります。今、寺尾さんが言われたように、水防センターも環境学習に力が入っているので、こういうつくりになってしまっています。一緒にパンフレットを付けたり、先ほどの防災



の件も国と調整をして、ペーパーを付けるなど、もう少しやればよかったと思っています。また、そういうものも出していくようにします。

【鈴木会長】 やっぱり一般市民というか、普通に思った皆さんの思いは、普通のほかの方たちも思うでしょう。

【事務局】 そのとおりです。

【鈴木会長】 だから違う言い方をすると、これはきちんと守って、プランⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴのまとめ方はそれぞれのいろいろな方の思いが重点的に反映されているはずでしょう。

【松井委員】 でも、施策として実際にやることはやってくださっています。報告書を見ると、やっているなと思います。実際は市民がどのくらい、そういうことについてよく理解しながら、市民のパワーがどのくらい発揮できているのかなという、行政は「市民協働」という言葉をよく使うけれども、まだまだそれが市民のモチベーションを上げるためにどうしたらいいかと、もっと上手にやってもらいたいと思います。それで担当者と話をすると、意外と縦割りで、例えば教育委員会のことには入らないとか、建設緑政局ではなくて、こちらの局だからできないとか、役割分担しながら1つの施策に対して、いろいろな局が協力し合っていると分かってやっているのならいいけれども、そうではないような気がします。その辺がもったいないなと思います。ベクトルが合っていない。

【緑政部長】 年々良くなっているとは思いますが。そこに一番注意してやれというのは、必ず何をやる時にも言われます。こういう機会を頂いて、どんどん意見を頂ければ、我々も返しやすいです。

【江原委員】 今回、1から30の推進施策の中で、今年度の取り組みということですが、この委員会は任期が2年です。2年間分の予定というのをプランとして本来出すべきではないかと思います。つまり、その次の年度は何をやるのか、2年後の予定も必要ではないかと思います。我々としても2年目はこのようなことがあると頭で考えながら、意見も言いやすくなるのではないかと思います。

【事務局】 会議の構成上、なかなか難しいと考えています。

【堀委員】 10年計画でやっていくわけですから、プランでハード的な部分は年度計画でできていくが、ソフト的な部分はいろいろ意見が出たように、改良しながらやっていくなど、工夫の仕方はたくさん出てくると思います。そこは分けて出されると、僕らも考えやすいという気がします。

あと1点だけ。流域自治体との協働推進で、多摩川の長い中でも川崎市が考えている部分は、右岸のごく一部だけです。対岸あるいはより上流部との協働、自治体や市民との協働をもっと積極的に進めていくべきだと思います。渡しの復活もそうですし、川崎市でいえば、対岸と兄弟みたいな地名がたくさんあるわけです。昔の洪水の流れで、こちらの上野毛、下野毛もそうですし、丸子もそうですし、たくさんあります。そういう所を取り掛

かりにして、対岸の区とうまく協働してやっていければいいと思います。災害が起きる時は、お互いに協力するので、日頃から、いろいろな取り掛かりを持って、行政および市民と一緒にやっていると、いろいろな発展が出てくるのではないかと思います。市民ではなかなかできない部分なので、ぜひ頑張ってもらいたいという希望です。

【緑政部長】 これは羽澤副所長がいればよかったと思いますが、京浜河川事務所が川の管理者で主体となってやっているのが多摩川流域懇談会でして、それこそ上流は小菅村まで声が掛かります。基本的に川崎と狛江くらいまでで、大田区等が入ってきて、年に2~3回集まってという形ですが、そういう場があります。あとは個別になどありますが、確かに統一感がないところもあると思います。

【小野委員】 いろいろイベントをやられて、多摩川の良さを知ってもらって、アプローチはすごくいいと思います。私どもも社内でイベントをやる時に、一番大変なのは人集めです。メールを送ったり、いわゆる口コミだったり、グッズを配ったりしてやっています。必ず終わったあとに、人集めの趣向も含めた結果の振り返りをやります。会長も言われましたが、振り返りをして、改善点を明らかに見える化をしていくことが、次につながる大事なことだと思うので、それをぜひいろいろな施策に対してやっていただきたいというのが希望です。

もう1点、これはアイデアレベルの話として聞いていただきたいのですが、地球温暖化は市民の方も知っていると思いますが、最近、海洋プラスチックごみ問題が地球の環境問題の中でクローズアップされていまして、スターバックスなども使い捨てのストローをやめたと、NHKのニュースなどに取り上げられています。一つの供給源が川といわれています。日本の川はそれほど大きな影響を与えているわけではないと思いますが、多摩川も、多摩川という地域だけではなくて、地球につながっているような視点の問題もあることを、いろいろな環境教育やイベントの場でそういう要素もアピールされていくと、違った視点で見てもらえることもあるのかなと、今、話を聞いて感じました。

【鈴木会長】 時間が足りないのですが、この場でぜひとも発言したいことはないですか。

【松井委員】 再三しつこいのですが、これだけは頭に入れて施策でやってもらいたいのは、先ほど言ったように、多摩区、高津区など各区の区役所との連携も地域では大事だと思います。「それは河川がやることだ」「多摩川施策がやることだ」と、意外と区が乗ってこない。でも、もう少し動いてもいいのではないかと思います。我々がこういうイベントをやるにも、会場取りに苦勞をします。市がお金を出さないと全然取れません。市と協働しているという名目だと取れます。それを全てやってくれということではないですが、教育委員会や地域包括支援など各区でいろいろやり出しています。そういう所とタイアップしたら、多摩川を使って非常にいい形になると思っても、なかなか、そういう所が乗ってこない。どこかが窓口になって、旗を振って全体を動かして、多摩川を上手に活用して、この施策を遂行できるようになったらいいと思います。

【吉富副会長】 この会議で、今後いろいろなアイデアも出てくると思いますし、細かい、いろいろお気付きになったこともあると思いますが、できるだけ前向きな議論ができればと思っています。特に実現可能なアイデアを頂いて、市役所の職員の方もやる気になっていただけるようなアイデアだといっています。また、そんなことも思いながら参加をさせていただきました。

【鈴木会長】 よろしいですか。本当は今日、このあと、ざっくばらんな会も予定していたのですが、台風が来ているので、それはなしにさせていただきます。

1 つだけ、今日の意見交換中の言葉について、どうしてもここで言うておかないといけないのですが、「サイクリングロード」ではない、ここは「サイクリングコース」です。川崎ではサイクリングロードは造っていません。それは気を付けないといけません。自転車専用の道ではないのです。分かるけれども、そこはきちんとやっていただきたいと思えます。

【松井委員】 そのサイクリングコースのことで付け加えれば、せせらぎ館でサイクリングの人が実際に、トイレがあるのでかなり休憩されます。あれは休憩設備ではないが、トイレがあるから寄ります。飲料について自動販売機はないのかと聞かれます。でも、国交省の基準でいうと、置けないのです。ほかで見ると、既にいろいろなことに貸している所は実際にあります。

【江原委員】 二子玉辺りだと、スターバックスや自動販売機がいくらでも、自転車で乗り入れて置く場所があって、そこでゆったり休憩をして飲料が飲めます。

【松井委員】 コースの整備だけではなくて、休憩場所も整備する必要があるのでは。

【江原委員】 川崎の場合は、サイクリングコースが土手の上で、その下がマラソンコースなのです。下に水飲み場やトイレはありますが、自転車置き場はないですから、そこに行けないのです。

【鈴木会長】 コースとしてもやるのなら、きちんとしたものを。

【松井委員】 そういうところまで配慮をして。

【鈴木会長】 なおかつ、散歩の人との共存も図れるような。

【江原委員】 川崎の行政は中途半端です。

【堀委員】 多摩川大橋の所の施設は全部置いてありますね。

【緑政部長】 スーパー堤防で場所を取りましたので。今の天端幅だと、少なくとも今ある他の場所はなかなか難しいです。広い所はああいうことが可能です。もちろん、狙って整備をしていますし、先ほどの二子玉川のスターバックスも、もともと狙って河川整備をしていますので。

【江原委員】 東急ゴルフクラブやパークボール場には自動販売機はありますが、走っている人たちは下まで行くかというところに行かないのです。自分で用意するのもありますが、そういう環境整備がもう少しまく国交省と調整をしてできないものかなと。バーベキュー

のごみにしても、掲示にしても、掲示がスプレーで見えない、そういう所はどうなっているのかと。巡回バイクもこれから東京都がそういう環境整備のバイクは電気バイクにしているそうです。川崎も率先して電気バイクにしてみたらどうですか。

**【鈴木会長】** 最後にいろいろ個別のいいアイデアを頂きました。サイクリングコースのことは、これから充実させてください。よろしくお願いいたします。

そろそろ、よろしいでしょうか。また、お気付きの点は委員として事務局のほうに進言していただいても結構です。台風の接近もありますし、第1回目はこのくらいにしたいと思います。

○閉会

**【事務局】** 会長、大変ありがとうございました。

最後に事務局より事務連絡があります。次回、最終回となっていて、平成30年度第2回川崎市多摩川プラン推進会議は2月頃を予定しています。後日、日程等を調整しますので、よろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、委員の皆さまには出席していただきまして、活発なご議論とたくさんのご意見を伺うことができました。今年度も川崎市多摩川プランに基づいて施策を推進していきますので、今後とも委員の皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、平成30年度第1回川崎市多摩川プラン推進会議を終了します。本日は誠にありがとうございました。